

DOCUMENT 1/2
DOCUMENT NUMBER
@: unavailable

DETAIL

JAPANESE

1. JP,2001-161414,A
2. JP,2001-288679,A

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-
161414

(43)Date of publication of application : 19.06.2001

(51)Int.Cl. A44C 27/00
A61N 1/00

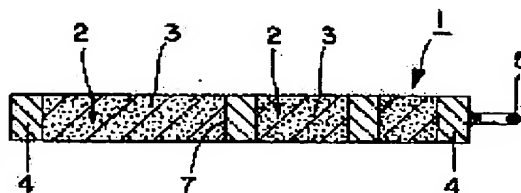
(21)Application number : 2000- (71)Applicant : TOARE:KK
013731

(22)Date of filing : 09.12.1999 (72)Inventor : KOMORIYA
HISASHI

(54) ACCESSORY GENERATING MINUS ION

(57)Abstract:
PROBLEM TO BE
SOLVED: To provide
an accessory
generating minus
ions by mixing
powder of minus ion
generating ores in
epoxy resin for
generating minus
ions to give good
effects on the human
body from the
accessory used
around the body.

SOLUTION: This
accessory is molded
of material
comprising powder of
minus ion generating
ores mixed by 80-120 pts.wt. to 100 pts.wt. of epoxy resin.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 21.08.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 14.01.2003

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

BACK

NEXT

MENU

SEARCH

HELP

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-161414

(P2001-161414A)

(43) 公開日 平成13年 6 月19日 (2001.6.19)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テマコード* (参考)

A 4 4 C 27/00

A 4 4 C 27/00

3 B 1 1 4

A 6 1 N 1/00

A 6 1 N 1/00

4 C 0 5 3

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2000-13731 (P2000-13731)

実願平11-9344の変更

(22) 出願日 平成11年12月 9 日 (1999.12.9)

(71) 出願人 399121461

株式会社トアレ

東京都墨田区本所 2 丁目 8 番 5 号

(72) 発明者 小森谷 恒

東京都墨田区本所 2 丁目 8 番 5 号

(74) 代理人 100076071

弁理士 松浦 恵治

Fターム(参考) 3B114 AA11 AA23 CC08 JA01

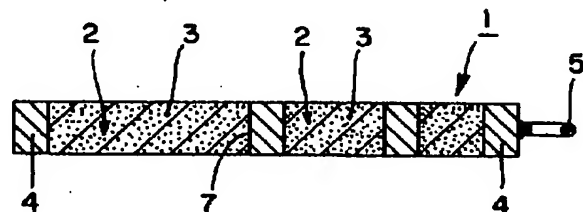
4C053 AA07

(54) 【発明の名称】 マイナスイオンを発する装飾品

(57) 【要約】

【課題】 本発明はマイナスイオンを発する装飾品に関し、さらに詳しくは、エポキシ樹脂にマイナスイオン発生原石の粉末を混入することにより形成されるもので、身体近辺で使用する装飾品から人体に良い影響を与えるマイナスイオンを発するようにしたものである。

【解決手段】 エポキシ樹脂 100重量部に対し、マイナスイオン発生原石の粉末を 80~120重量部混入した材料にて成型された素材で造られることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 エポキシ樹脂100重量部に対し、マイナスイオン発生原石の粉末を80～120重量部混入した材料にて成型された素材で造られることを特徴とするマイナスイオンを発する装飾品。

【請求項2】 エポキシ樹脂100重量部に対し、マイナスイオン発生原石の粉末80～120重量部、磁石0.2～0.5重量部、アルミナ5～30重量部を混入した材料にて成型された素材で造られることを特徴とするマイナスイオンを発する装飾品。

【請求項3】 マイナスイオン発生原石の粉末が、装飾品の表面付近に露出するように混入されていることを特徴とする請求項1又は2記載のマイナスイオンを発する装飾品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はマイナスイオンを発する装飾品に関し、さらに詳しくは、エポキシ樹脂にマイナスイオン発生原石の粉末を混入することにより形成されるもので、身体近辺で使用する装飾品から人体に良い影響を与えるマイナスイオンを発するようにしたものである。

【0002】

【従来の技術】従来、イヤリング、ピアス、ペンダント、ブローチ等のアクセサリ、さらには根付、キーホルダー、携帯電話機用のストラップホルダー、食卓に置くコースター等の日用雑貨品を含む広い意味での装飾品として、貴金属製のもの、あるいは樹脂製素材や貴金属製素材に宝石や貴金属を組み合わせたもの等が知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが最近の健康ブームのもと、上記装飾品は何れも健康に良いといわれるマイナスイオンを発するものではなかったため、従来の装飾品を身につけたり、身近に置いたりしても、人体に良い影響を与えるマイナスイオンを浴びることができなかった。このためマイナスイオンを発する装飾品の出現が望まれていた。

【0004】本発明は、上記問題点を解消するため、エポキシ樹脂にマイナスイオン発生原石の粉末を混入させた素材で造られる装飾品を提供することにより、上記の要望に応えようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の課題を解決するための手段として請求項1に記載した発明は、エポキシ樹脂100重量部に対し、マイナスイオン発生原石の粉末を80～120重量部混入した材料にて成型された素材で造られることを特徴とするマイナスイオンを発する装飾品である。

【0006】さらに請求項2に記載した発明は、エポキ

シ樹脂100重量部に対し、マイナスイオン発生原石の粉末80～120重量部、磁石0.2～0.5重量部、アルミナ5～30重量部を混入した材料にて成型された素材で造られることを特徴とするマイナスイオンを発する装飾品である。

【0007】また請求項3に記載した発明は、マイナスイオン発生原石の粉末が、装飾品の表面付近に露出するように混入されていることを特徴とする請求項1又は2記載のマイナスイオンを発する装飾品である。

【0008】上記の構成に係る本発明の請求項1に記載した装飾品は、素材中に存在するマイナスイオン発生原石の作用により、人体に良い影響を与えるマイナスイオンが発生することになる。

【0009】また請求項2記載の装飾品は、素材中に存在するマイナスイオン発生原石の粉末から人体に良い影響を与えるマイナスイオンが発生し、磁石からは人体に良い影響を与える磁力が発生し、アルミナは完成した装飾品を美しく着色することで、きれいに彩る作用を発揮する。

【0010】さらに請求項3記載の装飾品は、マイナスイオン発生原石の粉末が装飾品の表面付近に露出するように混入されているため、マイナスイオン発生原石の周囲に空気の対流が起きたり、マイナスイオン発生原石への摩擦刺激が起り易くなり、このためマイナスイオン発生原石から発せられるマイナスイオンが効率的に人体に届くという特徴がある。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0012】図1は第一実施形態のペンダントからなる装飾品1であり、主材としてはエポキシ樹脂2からなり、これにマイナスイオン発生原石の粉末3を混入して完成するものである。ここで、マイナスイオン発生原石の例としては、トルマリン、麦飯石、斑紋石等が挙げられる。

【0013】装飾品1の枠材4の空間部7に前記のマイナスイオン発生原石を充填して、後述する製造工程により製作されるが、ペンダントとして使用する際には係止部5に吊り下げ紐6を挿通して、これを首に掛けたりして使用する。

【0014】図2は図1のA-A線の拡大断面図であり、エポキシ樹脂2中にはマイナスイオン発生原石の粉末3が混入されている。

【0015】さらに図3は第二実施形態に基づくペンダントからなる装飾品10の拡大縦断面図であり、この例ではエポキシ樹脂2中にはマイナスイオン発生原石の粉末3の外に、磁石8、アルミナ9も混入されている。

【0016】図4は第三実施形態に基づくペンダントからなる装飾品20の拡大縦断面図であり、完成したペン

ダントの表面付近にマイナスイオン発生原石の粉末3が高密度で配設されると共に、マイナスイオン発生原石の粉末3が露出状態で混入されている例である。

【0017】本発明に係る装飾品1、10、20の製造方法を説明すると、まず図5の第一工程に示すように空間部7を有する枠材4は錫合金等で構成され、装飾品のフレームとなるものである。

【0018】この枠材4の底面をガムテープのようなシール11で密閉し、ついで図6の第二工程に示すように空間部7内にマイナスイオン発生原石の粉末3を混入したエポキシ樹脂2を充填し、これを60～80℃程度の環境下で1～2時間程度乾燥させて固化させる。このエポキシ樹脂2が固化したら、シール11を剥し、全体を研磨してからロジウムメッキや金メッキ等のメッキを施して完成させる。

【0019】本発明では、エポキシ樹脂2を100重量部に対し、マイナスイオン発生原石の粉末3を100～120重量部混入している。ここでマイナスイオン発生原石の粉末が100重量部未満の場合には、マイナスイオン発生原石の効果が不十分となって必要十分なマイナスイオンが獲得できず、一方120重量部を越えるとエポキシ樹脂2に異物混入感が現れて装飾品としての体裁を損なうとともに、エポキシ樹脂で装飾品を成型する際の素材の流動性が損なわれることとなる。

【0020】さらに本発明では、磁石8を0.2～0.5重量部混入し、アルミナ9を5～30重量部混入して効果的なものにすることもできる。ここで磁石8としては、フェライト磁石（1000ガウス程度）が一般的であるが、その外にネオジム磁石（3000ガウス程度）にすることも可能である。

【0021】上記の磁石8の混入割合が、0.2重量部未満であると、磁石から得られる磁力の効果が不十分となり、一方0.5重量部を越えるとエポキシ樹脂2に異物混入感が現れて装飾品としての体裁を損なうとともに、エポキシ樹脂で装飾品を成型する際の素材の流動性が損なわれることとなる。

【0022】またアルミナ9の混入割合が、5重量部未満であると、完成する装飾品の着色が不十分となって美しさに欠け、一方30重量部を越えるとエポキシ樹脂2に異物混入感が現れて装飾品としての体裁を損なうと

もに、エポキシ樹脂で装飾品を成型する際の素材の流動性が損なわれることとなる。

【0023】

【発明の効果】よって本発明は、完成した装飾品1から必要十分なマイナスイオンが発生することから、体内の電子不足を引き起こしている細胞や、還元剤としてのビタミン類、ある種のミネラル類に電子を与えることができるようになる。このため、体を酸化や老化から立ち直らせるという優れた効果を発揮する。

【0024】さらに磁石を混入することで、磁力による良い影響が得られ、アルミナを混入することで、装飾品の色づきを美しいものとすることができる効果がある。特に、装飾品の表面付近にマイナスイオン発生原石の粉末が露出するように混入しておくこと、マイナスイオン発生原石の粉末に空気の流れが起きたり、さらには摩擦刺激を受けたりするため、マイナスイオンの発生効率が格段に飛躍するという効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る装飾品の第一実施態様の斜視図である。

【図2】前図のA-A線拡大断面図である。

【図3】本発明の第二実施態様の拡大縦断面図である。

【図4】本発明の第三実施態様の拡大縦断面図である。

【図5】本発明に係る装飾品の製造第一工程を示す斜視図である。

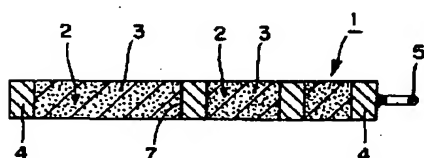
【図6】本発明に係る装飾品の製造第二工程を示す斜視図である。

【図7】本発明に係る装飾品をコースターとした場合の斜視図である。

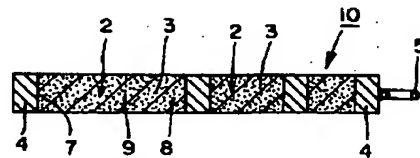
【符号の説明】

- 1、10、20…装飾品
- 2…エポキシ樹脂
- 3…マイナスイオン発生原石の粉末
- 4…枠材
- 5…係止部
- 6…吊り下げ紐
- 7…空間部
- 8…磁石
- 9…アルミナ
- 11…シール

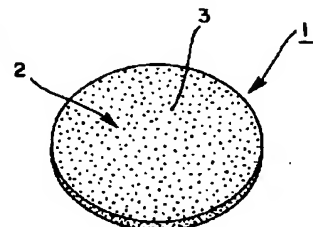
【図2】



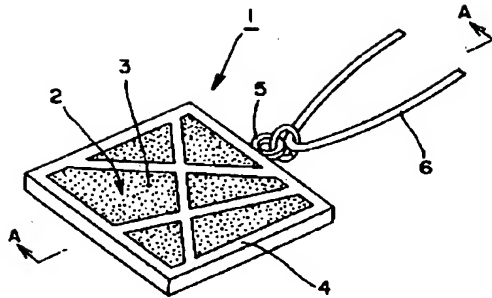
【図3】



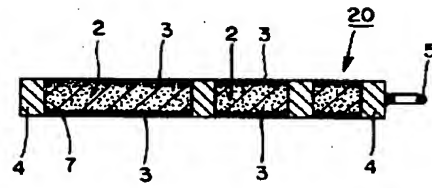
【図7】



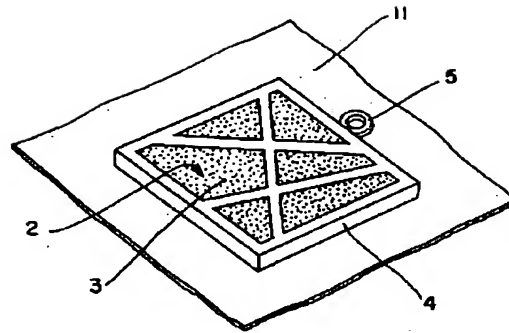
【図1】



【図4】



【図6】



【図5】

